

13 課

6月26日

新しい契約の人生



安息日午後 6月19日

暗唱聖句

わたしが来たのは、羊が命を受けるため、しかも豊かに受けるためである。(ヨハネ 10：10、新共同訳)

わたしがきたのは、羊に命を得させ、豊かに得させるためである。(ヨハネ 10：10、口語訳)

今週の聖句

1 ヨハネ 1：4、ヨハネ 5：24、ローマ 3：24、25、2 コリント 5：21、1 ヨハネ 4：16、黙示録 2：11、黙示録 20：6、14、黙示録 21：8

今週のテーマ

今期は契約について学んできましたが、それは（最も単純で純粋な形に枝葉を切り落とすとすれば）、基本的に、神が「これが、わたしがあなたを罪から救う方法である」と言っておられることなのです。

契約の約束の見える形での最終フィナーレは、もちろん、新しくされた世界での永遠の命ですが、契約の祝福を楽しむのをそれまで待つ必要はありません。主は今も、私たちの生活に関心を払ってくださっています。契約は、あなたがこれと、これと、これをしたら、長い間待たせて後、やっとその報いを手に入れられるというようなものではないのです。報酬である賜物は、信仰によって契約関係に入る者たちが、今この地上で楽しむことができる祝福なのです。

今週は、契約の学びの最後に、すぐに味わえる祝福について学びます。神の恵みの約束のあるものは、主がたたかれる音を聞いて、私たちがドアを開けさえすれば、私たちの心に流れ込みます。それは始まりにすぎません。それは実に、終わることのない祝福の始まりなのです。

今週のポイント

私たちはなぜ喜びを感じるのでしょうか。私たちは何によって、その約束を自分のものにできるのでしょうか。その契約の何が私たちが罪の重荷から解放してくれるのでしょうか。新しい心を持つとはどんな意味でしょうか。

「わたしたちがこれらのことを書くのは、わたしたちの喜びが満ちあふれるようになるためです」(1ヨハ1:4)。

ここでヨハネが書いていることに注目してください。彼はいくつかの単純な言葉で、私たちが契約の民として持つべき素晴らしい特権について表現しています。それが喜びの約束なのです。

キリスト者として、私たちはしばしば、信仰は感情ではないのだから、感情に任せて行動してはいけない、そして私たちは感情を越えてゆく必要があるというのはみな正しいことです。しかし同時に、私たちが感情や感動、そして気分を持たないとしたら人間といえるのでしょうか。私たちは私たちの感情を否定できません。この聖句が言っていることは、私たちが感情（ここでは喜び）を持つべきであるということだけでなく、喜びに満たされるべきであるということです。

問1 1ヨハネ1:4の文脈を頭に置いて、この章の1節から読んでみましょう。ヨハネは初代教会のクリスチャンが喜びに満たされるために、どうするようにと書いていますか。なぜそれが彼らに喜びを与えるのでしょうか。

ヨハネは十二弟子の1人でした。彼はキリストの3年半の宣教のほとんど初めからキリストと共にいて、イエスの驚くべき出来事のいくつか（十字架、ゲッセマネ、そして変貌の山）を目撃しました。このように、ヨハネは証人として、確かにこの主題について語るにふさわしい人物でした。

さらに、このことは彼だけに強調されるべきことではなく、弟子たち全員にイエスがお望みになったことでした。彼らは今、互いの交わりだけでなく、神ご自身との交わりを経験していたのです。イエスは私たちが主との親しい関係に入るための道を開かれました。この交わり——この関係——がもたらすものの一つが喜びなのです。ヨハネは彼らに、彼らがイエスについて聞いたこと（イエスを見、触れ、感じ、そしてイエスから聞いたこと）は、真実であることを知ってほしいと望んだのです。そのようにして彼らも、天の父との喜びに満ちた関係に入ることができるのでした。

ある意味、ヨハネはここで彼の個人的な証しをしています。あなた自身のイエスとの関係についての証しがありますか。ヨハネのように、だれかの主にある喜びを増し加えるために、あなたは何を語ることができますか。

「従って、今や、キリスト・イエスに結ばれている者は、罪に定められることはありません」(ロマ8:1)。

若い女性が乱暴され、殺されましたが、犯人はわかりません。警察は犯人をわなにかけるため、彼女の墓に隠しマイクを仕掛けました。彼女の死から何か月も経ったある夜、1人の若い男が墓に近づき、ひざまずいてすすり泣き、その女性に赦しを乞いました。警察はもちろんその声を聴取し、犯人を捕まえました。

何が男を墓へと駆り立てたのでしょうか。罪の意識の他にはないでしょう。

もちろん、私たちはだれも彼がしたような悪いことはしていません。しかし、私たちはみな、罪に定められており、私たちは恥ずべきことをし、消してしまいたいがそうはできないことをしたのです。

イエスとその新しい契約の血のおかげで、だれも罪の恥辱の下に生きる必要はないのです。きょうの聖句によれば、私たちが罪に定める者はいないのです。最終的な裁きにおいて神は、私たちが罪なき者と見なし、私たちが罪を感じるようなことは何もしなかったかのように見なしてくださるのです。

問2 次の聖句は、ローマ8:1を理解するのに、どのような助けとなりますか(ヨハ5:24、ロマ3:24、25、2コリ5:21)。

サタンが私たちの耳で、私たちは悪い者だ、神に受け入れていただくにはあまりにひどい罪人だとささやくとき、私たちは、荒野でサタンの誘惑に対してイエスがなされたと同じことをすれば良いのです。私たちが聖書のみ言葉で戦うことができます。そんなとき、聖書の中で最もふさわしい聖句が、ローマ8:1なのです。この聖句は、私たちの人生の罪の現実を否定するものではありません。そうではなく、私たちが持っている主との契約関係のゆえに、私たちはもはや、罪の責めの下にはないということです。イエスが私たちのために罰を受けてくださったのです。キリストは今、父なる神の御前に立って、私たちのために流されたご自身の血によって願い、私たちの罪の代わりにご自身の義を示してくださっているのです。

あなたの犯したどんな罪も主が赦してくださっているという事実は、私たちの人生にどんな違いをもたらしますか。この事実は、あなたに対して罪を犯す人に接する上で、どのように助けになりますか。どんな考え方の転換を生みますか。

「信仰によってあなたがたの心の内にキリストを住ませ、あなたがたを愛に根ざし、愛にしっかりと立つ者としてくださるように。また、あなたがたがすべての聖なる者たちと共に、キリストの愛の広さ、長さ、高さ、深さがどれほどであるかを理解し、人の知識をはるかに超えるこの愛を知るようになり、そしてついには、神の満ちあふれる豊かさのすべてにあずかり、それによって満たされるように」(エフェ3:17~19)。

今期の初めに学んだように、新しい契約とは、主が私たちの心に記されるものです(エレ31:31~33)。きょうの聖句によれば、私たちの心に、律法だけでなくキリストも住まれるのです。それはもちろん、キリストとその律法は密接に結びついているからです。このように、私たちの心にあるキリストの律法と、そこにお住みになるキリストと共に(ここで「住む」と訳されているギリシャ語には、「住み着く」という意味があり、永遠性を含んでいます)、私たちは、新しい心というもう一つのすばらしい契約の恩恵にあずかるのです。

問3 私たちにはなぜ、新しい心が必要なのでしょうか。新しい心を持つ人の中には、どんな違いが生まれるのでしょうか。

きょうの聖句をもう一度読んでみましょう。愛が強調されていることに注意してください。これらの言葉は、愛を土台とする安定、堅固、そして不変性を意味します。私たちの信仰は、神への愛と人への愛に根差していないなら、無意味なのです(マタ22:37~39、1コリ13章)。この愛は何もないところから生まれるのではなく、イエスを通して表された私たちのための愛を垣間見る(「人の知識をはるかに超えるこの愛を知る」)ことによって、与えられるのです。その結果、私たちの生活は変わり、私たちの心が変わり、そして私たちは、新しい思い、新しい望み、新しい目標を持つ新しい人になるのです。その思いは、私たちの心を変え、他者への愛を徐々に形づくり、私たちのための神の愛に応えたいという願いを起こさせます。おそらくこれが少なくとも、パウロの言う、「神の満ちあふれる豊かさ」の一部にあずかることなのです。

問4 1ヨハネ4:16を読んでください。この聖句はパウロがエフェソ3:17~19で述べていることと、どのように関連するのでしょうか。

「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。生きていてわたしを信じる者はだれも、決して死ぬことはない」（ヨハ11：25、26）。

永遠の命には二つの面があります。「現在」においては、信じる者に現在の豊かな人生をもたらします（ヨハ10：10）。それは現在私たちに与えられている多くの約束を含みます。

「未来」においては、永遠の命です。すなわち、肉体の復活の約束です（ヨハ5：28、29、6：39）。それは未来の出来事ではありますが、だれもがこの約束に値する者であり、それはキリスト者として、私たちのすべての希望を最後に締めくくる出来事なのです。

問5 きょうの聖句を通して、イエスは何を語っておられるのでしょうか。永遠の命はどこに見いだせるのでしょうか。「生きていてわたし〔主〕を信じる者は、決して死なない」というみ言葉をどのように理解すれば良いでしょうか（黙2：11、20：6、14、21：8参照）。

私たちは、みな死にます。しかしイエスによれば、イエスを信じる者にとって、この死は眠りにすぎず、命の復活によって終わる束の間の休止です。キリストがおいでになるときは、キリストにあって死んだ者たちは不死の体によみがえり、キリストに従う生きている者たちは、瞬間に不死の体に変えられます。これらのキリストにある両者は、死んでいた者も生きている者も、同じよみがえりの体を持ちます。そのとき、神の民に不死が始まるのです。

「キリストは、われわれがキリストと一つ精神となるために、われわれと一つ肉体となられた。われわれが墓から出てくるのは、この結合によるのである。すなわち、キリストの力のあらわれとしてだけでなく、信仰によってキリストのいのちがわれわれのものとなったからである。キリストの真の品性を見、キリストを心に受け入れる者は、永遠のいのちを持つ。キリストがわれわれのうちに住まわれるのは、みたまを通してであり、神のみたまが信仰によって心に受け入れられる時、それは永遠のいのちの始まりとなる」（『希望への光』870ページ、『各時代の希望』中巻135、136ページ）。

あなたはこの希望と約束を、愛する者との別れのために苦しむ人と、どのように分かち合えるでしょうか。

「だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしてください。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」(マタ28:19、20)。

世界中で、人々はしばしば、南アフリカの作家ローレンス・ヴァン・デル・ポストが「無意味という重荷」と呼んだものによって、苦しめられています。人は、命は賜物であるということを理解してはいますが、命を使って何をするべきかを知らず、この賜物の目的が何であるかを知らず、そしてそれをどのように使うべきかを知らないのです。それは、だれかに貴重な蔵書がたくさんある図書館をあげるようなものです。その人は本を読むことを知らず、火を起すためにそれらの本を使うのです。なんとという無駄な使い方でしょう。

しかしながら、新しい契約のクリスチャンが向き合うべき問題は、そのような問題ではありません。反対に、私たちは、だれもがみな、永遠の命を持つことができるために十字架にかかり、すべての人類の罪のために死に、復活された救い主のすばらしい知らせを知る(そして個人的に経験する)喜びを知っているのです。マタイ28:19、20の明確な召しを考えると、イエスを信じる者には確かに、人生の使命と目的が示されています。そして、それは彼、または彼女が、イエス・キリストにあって個人的に経験したすばらしい真理を世界に告げ知らせることなのです。なんとという特権でしょう。私たちがこの世でしたほとんどすべてのことは、この世界が終われば忘れられるでしょう。しかし、福音を人々に宣べ伝えたことは、永遠に覚えられるのです。宣教と目的の意義について語りましょう。

問6 きょうの聖句を、要素ごとに分解してみましょう。イエスが私たちにされた具体的なご命令は何ですか。それらには何が含まれますか。キリストがお命じになったことを行うために信仰と勇気を私たちに与える、どんな約束を私たちは持っていますか。

新しい契約のクリスチャンとして、私たちは主ご自身から明確なご命令を受けています。私たちがだれであれ、私たちの人生の持ち場が何であれ、私たちの限界が何であれ、私たちにはみな、果たすべき役割があるのです。あなたはそのため何をしてきましたか。もっと何かできることがありますか。宣教の働きのために、あなたのクラスができる、より大きな役割があるでしょうか。

参考資料として、『各時代の争闘』第40章「神の民の救出」、『キリストへの道』「主にある喜び」を読みましよう。

「聖なる神の御子には、負わねばならないご自分の罪や悲しみはなかった。彼は他者の悲しみを負われたのである。彼の上に置かれたのは、われわれすべての咎^{とが}であった。天来^{あま}の憐れみによって、彼はご自身を人と結びつけられ、そして、違反者として扱われるためにご自身を人類の代表として差し出された。彼は、われわれの罪のために開かれた苦悩の深い淵をのぞき込み、人と神を隔てる淵の架け橋となることをお申し出になられたのである」(エレン・ホワイト『聖書のこだまと時のしるし』1892年8月1日号、英文)。

「来なさい、私の兄弟よ。罪に汚れたあなたのままで来なさい。罪の重荷をイエスの上に置きなさい。そして、信仰によって主の功績を掲げなさい。今、来なさい。恵みが伸ばされている間に。……悔い改めの機会を軽んじてはなりません。今、死から立ち上がるようにとあなたに語りかける御声を聞きなさい。そうすれば、キリストはあなたに光をくださるでしょう。この一瞬一瞬が、まだ見ぬ世界という運命に直接結びついているのです。ですから、あなたの中のプライドと不信に、差し出された恵みをなおも拒ませてはなりません。あなたがそうするなら、終わりのときに、次のように嘆き悲しむままにされるでしょう。『収穫の時は過ぎ、夏は終わったが、わたしたちは救われていない』(『教会への証』第5巻353ページ、英文)。

話し合いのための質問

- ① 「我々は宇宙との関連の中で我々自身を見るとき、我々の無知と最終的な無力さを知らされる。ゆえに、我々は不安になり、その結果、恐れるのだ」(『信仰と理性のはざま：基本的な恐れと人間の状態』7ページ、英文)。この文章と今週学んだエフェソ3:17~19を比べて、感想を話し合ってみましよう。
- ② 「神の豊かさ」に満たされることについて話し合ってみましよう(エフェ3:19)。それはどういう意味でしょうか。私たちはそれを生活の中でどのように体験できるでしょうか。

まとめ

契約は単なる深遠な神学的教義ではありません。それは私たちとキリストとの救いの関係の範囲を定めるものであり、この関係は私たちに今も、そして主がおいでになるときにも、すばらしい恩恵を与えてくれるものなのです。

神は、本当にいる

クリスティアンは、14歳の時から薬物を使い始め、18歳の時にはもう薬物中毒でした。有名なロックグループのオーディションに受かり、彼はロックスターとして生きて行くことを決めました。21歳になった時、ソコ活動を始めましたが、彼の夢は破れ、お金も家も失い、母親のもとに戻りました。薬物だけが拠り所でした。

クリスティアンは今まで、神を信じたことはありませんでしたが、孤独で家にいた時、彼は上を見上げて言いました。

「主よ、私はあなたがだれか知りません。あなたを信じていません。でも、もしあなたが存在しておられるなら、教えてください。もし、『わたしは本当にいる』というあなたの声を聞いたら、私はあなたに従います」

その時、電話が鳴りました。「クリスティアンと話したいのですが」と女性の声でした。「私です。何でしょうか」と彼が答えると、「私はあなたに、神が本当にいる、と告げるために電話をしました」と女性は言いました。クリスティアンは驚きました。その電話の主は、彼が神を信じるために、神に求めたその通りの言葉を告げたのですから。

彼女は、彼の友人であるレオナルドの姉でした。2週間前、クリスティアンがレオナルドを迎えに家を訪ねた時、実は彼女もそこにいたのです。その夜、彼女は神に、「クリスティアンは、あなたを必要としています」と祈りました。すると、弟から彼の電話番号を聞き、2週間後に電話をする、という思いが与えられました。そして彼女は、「主よ、私をお用いください」と祈り、電話をしたのです。

クリスティアンは興奮した様子で、友人のアルフォンソにこの話をしました。するとアルフォンソは、自分の家に来ようクリスティアンに言いました。アルフォンソは手に聖書を持って、彼を待っていました。クリスティアンは驚きました。それまで、アルフォンソとは、神について話すことなどなかったのです。その夜、クリスティアンはアドベンチストの教理について、聖書研究を受けました。



3か月後、クリスティアンはバプテスマを受け、薬物から解放されました。10年後の現在、彼は牧師になるためにコロンビア・アドベンチスト大学で学んでいます。

「神に不可能なことは何もありません」とクリスティアンは言います。